

# 県立新庄病院の機能強化、建て替えの早期実現を!

高齢になっても住み慣れた地域で  
安心して暮らし続けるために

以前より提唱してきた「総合診療医」の育成へ  
向けて具体的に動き出しました!

## 総合診療医を育成へ

県立新庄病院  
置賜総合病院 厚労省事業に採択

県議会は11日、予算特別委員会を開き、佐藤聡(自民) 渡辺ゆり子(共産) 山科朝則(自民)の3委員が採択を求めた。県は改築を検討している県立新庄病院(新庄市)が幅広い分野に対応できる「総合診療医」を育成するため、厚労省の専門医認定支援事業に申請し、採択されたことを明らかにした。同じく公立置賜総合病院(川西町)も採択。両病院は2017年度から育成を始め、最遅で20年度の総合診療医の誕生を目指す。



山科朝則委員 (自民)

「健康長寿日本一実現プロジェクト」を推進しているが、取り組み状況はどうか。健康マイレージ全市町村に普及。中山子健康福祉部長は「健康長寿日本一実現プロジェクト」を推進しているが、取り組み状況はどうか。健康マイレージ全市町村に普及。中山子健康福祉部長は「健康長寿日本一実現プロジェクト」を推進しているが、取り組み状況はどうか。

## 小児医療も重点分野

新庄病院の県に意見書提出  
改築検討委員  
県立新庄病院改築検討委員(委員長 山科朝則)は5日、新たな病院の整備に関する基本的な考え方をまとめた意見書を新潟県に提出した。地域医療の充実や多職種連携による療養支援などを行う必要性を提示。県は意見書を踏まえ、2016年度内に基本構想を策定する。

山科委員が同日、県庁を訪問。意見書を受けた新庄病院最上地域住民の命をとり、福祉分野とも関わり、幅広い分野と連携を促す。山科朝則委員長(左)、県庁職員(右)。



総合診療医とは患者の心と身体両面から治療を行うとする専門医です。総合診療医は、幅広い専門性を活かして「地域を診る医師」として病気を治すことに加え、地域の健康を守ることにも期待される専門医です。

超高齢社会を迎え複数の疾患を抱えた患者や医師不足の中で地域医療への対応が求められており、今後、総合診療医の必要性が高まると考えられています。平成28年度は、改築に向けた「基本構想」を策定します。

## 機能強化

がん緩和ケア

救急対応

小児医療

人材確保

# 県立新庄病院の建て替え

健康長寿日本一を目指して

医療・福祉の連携

介護予防

健康長寿日本一

看護師確保

総合診療医育成

総合診療医に求められるもの

1. コミュニケーションを大切にしたい人間中心の医療
2. 包括的に対応
3. 地域、チームと連携
4. 地域のニーズに合った医師の育成
5. 公益に資する職業規範
6. 外来、救急、病棟、在宅など多様な場面に対応

県では「健康長寿やまがた」を実現するため平成28年度さまざまなプロジェクトを予定しています。(左下図参照) 「健康長寿日本一」を延ばすこと、すなわち高齢になっても医療や介護の世話になることができるだけ遅らせるためには、「元気なうちから健康増進に取り組んだり、介護予防に取り組んだりすることが大切だとされています。」

また、病気やけが等で介護状態になったとしても、効果的なリハビリを受けられることで自立した生活を可能にすることも重要です。高齢化が進む中で、健康寿命を延ばすことは介護保険料や医療費を抑制することにつながり、これは高齢者だけでなく若い世代の負担を軽減することにつながります。

人口10万人あたりの看護師数  
県平均 897.9人  
新庄最上地域 **730.1人** (県内では最も低い!!)

- 対策
- 看護師を志望する小中高生の増加と地元定着に向けた取り組み  
→学習会・講演会等の開催に加え、卒業後も継続して情報提供を行う。
  - Uターン、Iターンの促進  
→ナースバンクを設置し雇用のマッチングを図る。
  - 看護師確保推進ネットワークの構築  
→最上地域看護師確保協議会が設立。3/2に設立総会が開催。医療機関、福祉施設、行政などで構成。看護師確保だけでなく教育・研修も実施。(H27.7/24 地域議員協議会で質問)

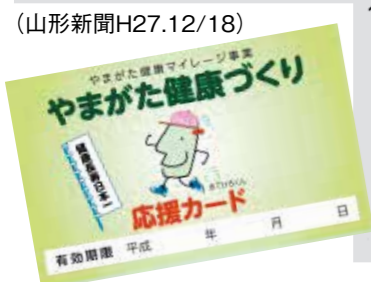
## 健康増進拠点創設へ

来年度 県、モデル十数カ所

県は2016年度、「健康長寿日本一」を目指すプロジェクト事業の一環として、健康増進の拠点となる「やまがた健康づくりステーション」(仮称)の創設を検討している。集客施設や商店街の空き店舗、公民館等、既存施設を活用して、利用者や地元住民が気軽に運動や体操に取り組める拠点とする計画。モデル事業として県内十数カ所に設置し、健康づくりの取り組みを広く波及させたい考えだ。

県健康福祉部は16年度当をチェックしたりできる会を提供することで、健康初予算でプロジェクト事業 拠点を百貨店内に設け、1つくりへの意識を高めても費す800万円を要求して 年間1万3千人超が利用できるようにしたい。

県健康づくりプロジェクト推進室によると、健康づくりステーションの形は定多数の人が集まる広域的な集客スペースや施設「密着型」の二つを設定。各を想定し、利用者易い施設は「住民が主体となった密着型」を、地域密着型は「地域密着型」は公民館や空き店舗など比較的小規模な施設10カ所を対象。同室は「住民が主体となった密着型」の二つを設定。各を想定し、利用者易い施設は「住民が主体となった密着型」を、地域密着型は「地域密着型」は公民館や空き店舗など比較的小規模な施設10カ所を対象。同室は「住民が主体となった密着型」の二つを設定。各を想定し、利用者易い施設は「住民が主体となった密着型」を、地域密着型は「地域密着型」は公民館や空き店舗など比較的小規模な施設10カ所を対象。



- 健康長寿日本一プロジェクト
- 山形健康マイレージ事業  
公民館や空き店舗、集客施設等を活用し体操等に取り組んでもらう場所づくり
  - 山形健康マイレージ事業  
健康づくりの取り組みに応じてポイントを獲得、協力店等で特典が受けられる活動
  - 減塩食育プロジェクト  
米沢栄養大との連携
  - 受動喫煙防止  
やまがた健康づくり大賞
  - やまがた健康づくり大賞  
健康づくりに積極的な企業を顕彰
  - やまがた健康づくりフェア開催

(山形新聞H27.12/18)